

会長および評議員選挙の結果

選挙管理委員長 坪田 博美

日本植物分類学会ニュースレターNo. 45 で公示された日本植物分類学会会長および評議員選挙の開票結果についてお知らせします。

開票は 2012 年 7 月 12 日(木)午前 11 時より、東広島市の広島大学大学院理学研究科 3 階大セミナー室において、本学会会員の山口富美夫氏と久保晴盛氏、井上侑哉氏の立ち会いのもとで行われました。開票の結果、以下の方々が次期会長および評議員に決まりました。

【会長】

当選	角野 康郎	51 票
次点	村上 哲明	35 票

(有効投票数 132 票)

【評議員】

当選	西田 佐知子	40 票
	永益 英敏	36 票
	藤井 伸二	28 票
	村上 哲明	26 票
	西田 治文	25 票
	秋山 弘之	24 票
	田村 実	20 票
	副島 顕子	20 票
次点	池田 博	19 票
	梶田 忠	19 票

(有効投票数 124 票)

評議員追加選出の結果について

評議員 西田 佐知子

選挙管理委員長からのご報告のとおり、次期評議員として 8 名(秋山弘之、副島顕子、田村実、永益英敏、西田佐知子、西田治文、藤井伸二、村上哲明)が選挙によって選出されました。「役員等の選出についての細則」第 4 条の規定に基づき、上の 8 名の合議によって下記の 4 名を評議員として追加選出しました。

池田 博、梶田 忠、仲田 崇志、大村 嘉人 (敬称略)

諸報告

庶務報告(2012年5月～7月)

庶務幹事 西野 貴子

学術著作権協会の権利委託者現況調査への回答を行った(7月25日)。

お知らせ

2012年度日本植物分類学会賞(学会賞および奨励賞)の受賞候補者の募集

学会賞選考委員長 高宮 正之

以下の2つの賞の受賞候補者を募集します。自薦、他薦を問わず、会員の皆様の積極的な応募・推薦を期待しております。候補者は、学会賞選考規定第2条に基づき、以下に該当する方です。

「日本植物分類学会賞」:

植物分類学および日本植物分類学会の発展に特に顕著な貢献が認められた者に授与する。受賞者の資格は、10年以上継続して本会会員である者とする。

「日本植物分類学会奨励賞」:

受賞年の4月1日において満38歳以下で、優れた研究業績をあげた将来有望な研究者(学生を含む)に授与する。受賞者の資格は、3年以上連続して本会会員であり、主要な研究業績の一部を本会の大会または雑誌に発表している者とする。

募集要領

他薦の場合は、推薦する候補者の氏名と推薦理由、どちらの賞に推薦するかをお知らせください。自薦の場合は、(1)どちらの賞への応募か (2)ご自分の研究全体に関するタイトル (3)略歴(生年月日、学歴、職歴など) (4)調査・業績の概要 (5)業績リスト(論文、著書など)と本学会の大会での発表記録をワード・ファイルあるいはA4用紙に記入して(書式は自由)お送りください。自薦、他薦を問わず、さらに必要な資料があれば、学会賞選考委員会から候補者の方に提出を依頼します。応募は、e-mailでのファイル添付、または郵便でお願いします。

書類送付先: 〒860-8555
熊本市中央区黒髪2-39-1
熊本大学 大学院自然科学研究科
高宮 正之 宛
e-mail: lycopod@aster.sci.kumamoto-u.ac.jp

応募締め切り日: 平成24年9月28日

その他: 両賞の受賞者は、平成25年春の日本植物分類学会大会において表彰されます。また、同大会において受賞講演を行っていただくことを原則としております。

2012 年度日本植物分類学会講演会のお知らせ

講演会担当委員 岡崎 純子

2012 年度の日本植物分類学会講演会は、大阪学院大学の林一彦先生に会場をお世話いただき、次のとおり開催いたします。詳細につきましては次号のニュースレターでご案内いたします。

【日時】 2012 年 12 月 22 日(土) 午前 10 時～午後 4 時 40 分

【講演会場】 大阪学院大学

2 号館地下 1 階 2 号教室(02-B1-02 教室)

〒564-8511 大阪府吹田市岸辺南 2 丁目 36 番 1 号(電話:06-6381-8434)

【会場までのアクセス】

JR 東海道本線岸辺駅, 阪急京都線正雀駅から大阪学院大学までともに徒歩 5 分。

http://www.osaka-gu.ac.jp/p_student/index.html の「キャンパス案内」から「交通アクセス」をご覧ください。

【講演者】 川窪 伸光 (岐阜大)

高橋 正道 (新潟大)

田中 伸幸 (高知県立牧野植物園)

中西 弘樹 (長崎大)

水田 光雄 (近畿植物同好会)

山本 武能 (京都大大学院)

国際シンポジウム「植物と菌類の環境への適応と進化 (Environmental Adaptation and Speciation of Plants and Fungi)」開催のご案内

岩科 司(国立科学博物館)

国立科学博物館では 10 月 6 日から 8 日にかけて、東京上野の国立科学博物館本館において上記の国際シンポジウムを開催します。このうち 6 日はプレシンポジウムとして日本語で、また 7 日と 8 日は 18 名の演者が英語で講演を行います。6 日は上野本館の入館料が必要ですが、7 日と 8 日は無料となります。本会と懇親会に参加希望の方はファックスあるいはHPフォームにて申し込み下さい。なお、懇親会にも参加の方は当日参加料を徴収します。

<http://www.kahaku.go.jp/event/2012/10sympoBotany/index.html>

プレシンポジウム(一般向け, 日本語) (入館料要 600 円)

【日時】: 平成 24 年 10 月 6 日(土) 13:00~16:00

【場所】: 国立科学博物館上野本館 講堂

【講演者】: 増沢 武弘(静岡大学)

伊村 智(国立極地研究所)

田中 法生(国立科学博物館)

堀江 健二(北邦野草園)

細矢 剛(国立科学博物館)

シンポジウム(英語) (無料)

【日時】: 平成 24 年 10 月 7 日(日)10:00~17:00, 8 日(月, 祝)9:00~13:00

【場所】: 国立科学博物館上野本館 講堂

【講演者】: Tamotsu Hoshino (Hokkaido Univ., Japan), Deborah J. Shafer (Engineer Res. Develop. Center, USA), Hiroaki Setoguchi (Kyoto Univ., Japan), Satoshi Koi (Nara Inst. Sci. Tech., Japan), Hirokazu Tsukaya (Univ. Tokyo, Japan), William Bond (Univ. Cape Town, S. Africa), Hajime Ikeda (Nat. Mus. Nature Sci, Japan), Yoshinori Murai (Keio Univ., Japan), Massimiliano Tattini (Inst. Plant Protec. Natl. Council, Italy), Hans Lambers (Univ. Western Australia, Australia), Ching-I Peng (Academia Sinica, Taiwan), William Purvis (Univ. Exeter, UK), Leho Tedersoo (Natl. His. Mus. Tartu Univ., Estonia), Mark C. Brundrett (Dept. Environ. Conser., Australia), Elizabeth A. Arnold (Univ. Arizona Tucson, USA), Kenji Seiwa (Tohoku Univ., Japan), Takahiro Yagame (Tottori Univ. Japan), Harald Schneider (Nat. Hist. Mus., UK).

懇親会 (会費 6,000 円)

【日時】: 10 月 7 日(日)18:00

【場所】: 国立科学博物館ムーセイオン

『新しい植物分類学 II』が刊行しました！

10 周年を迎えた日本植物分類学会が監修した, 第一線で活躍する研究者が最新の成果を交えて研究を紹介した冊子の第二弾です。

『新しい植物分類学 II』

日本植物分類学会／監修, 戸部 博・田村 実／編著,

講談社／発行, ISBN: 978-4061534490

定価 3,600 円(税別), A5 版, 336 ページ

目次

コケ植物(嶋村正樹)

コケ植物の分類(樋口正信)

コケ植物の分子系統(坪田博美)

コラム1(古木達郎)

コケ植物の分布と分化(秋山弘之)

細胞分裂からみたコケ植物の進化(嶋村正樹)

コラム2(嶋村正樹)

シダ植物(広義)(村上哲明)

薄囊シダ類の系統と分類(海老原淳)

ナチシケンダ(メシダ科)(篠原渉)

シダ植物における種分化(角川(谷田辺)洋子)

コラム3(佐藤利幸・尾鼻陽介)

裸子植物(戸部博)

グロソプテリス(西田治文)

ハイマツとキタゴヨウ(マツ科)(綿野泰行)

コウホネ属(スイレン科)(志賀隆)

コラム4(岡崎純子)

マメ科(遠藤泰彦)

トウダイグサ科(徳岡徹)

トウダイグサ科, コミカンソウ科(黒沢高秀)

ナデシコ目(岩科司)

コラム5(岩坪美兼・氷見栄成・三浦憲人)

ムニンハナガサノキとハナガサノキ(アカネ科)(菅原敬)

日本産シオガマギク属(ハマウツボ科)(藤井紀行)

スイカズラ属(スイカズラ科)(五百川裕)

日本産シオン属(キク科)(伊藤元己)

コラム6(藤井伸二)

ホトトギス属(ユリ科)(高橋弘)

カンナ科(田中伸幸)

付録(海老原淳・嶋村正樹・田村実)

寄稿

学名のラテン語(11)

永益 英敏(京都大学総合博物館)

種と種内分類群の学名の形容語-形容詞 2

前回(永益 2012)では第一第二変化形容詞をとりあげたが、今回はラテン語の形容詞のもう一つのグループ、第三変化形容詞についてみてみよう。

第一第二変化形容詞が、女性形では第一変化名詞、男性・中性形では第二変化名詞と同様の変化をするのに対し、第三変化形容詞は第三変化名詞のように活用する。Botanical Latin (Stern 1992)では B 群(Group B)として扱われている。第三変化名詞は語幹末の音によるバリエーションが多くラテン語の学習者泣かせなのだが、第三変化形容詞は、種および種内分類群の学名の形容語として用いられる限り単数主格のみを考えればよいので、その種類は大きく 2 つ、i 幹形容詞(単数主格が性によって変化する)と子音幹形容詞(単数主格は 3 性で同形)に分けることができる。

i 幹形容詞の大部分では、単数主格の語尾は男性・女性では同形となり-is, 中性では-e と変化する(-is, -e 型)。例をあげると「短い」という意味をもつ brevis(男性)は女性でも brevis, 中性だけが異なり breve である。ラテン語の辞書では見出し語は男性単数主格でその後ろに中性形語尾を従えて、brevis, e, adj.のように表示される。adj.は形容詞(adjectivum)の意味である。Botanical Latin の Vocabulary (Stern 1992: 360-532)では、brevis (adj. B)として B 群形容詞であることを示している。地名に由来する形容詞のうち、-ensis という語尾をもつものもこの-is, -e 型である。

数は少ないが、i 幹形容詞には男性単数主格が-er で終わり、女性、中性ではそれぞれ-(e)ris, -(e)re で終わるバリエーションがある(-er, -(e)ris, -(e)re 型)。これにも女性、中性形で r の前の e が落ちるものと落ちないものがあり、いずれであるかは辞書でみることができる。acer「鋭い」は acer(男性), acris(女性), acre(中性)と e が落ちる方で、「速い」という意味の celer(男性)は celeris(女性), celere(中性)となり e を保持する。辞書ではそれぞれ acer, acris, acre, adj.; celer, celeris, celere, adj.のように表示される。「10 月の」を意味する october, -bris, -bre もこの仲間で、ローマの月の名は形容されている名詞 mensis(「月」を意味する男性名詞)が省略されているため男性形なのである。前回(永益 2012)の第一第二変化形容詞にも男性形で-er となるものがあつたことを思い出してほしい。

古典ラテン語期において-er, -ris, -re 型であつた campester(平地の), silvester(森林の), terrester(地上生の)などは、それぞれ campestris, sylvestris, terrestris という-is, -e 型の派生形を持っている。

もう一つの子音幹形容詞は単数主格において男性、女性、中性で変化しない。fallax「偽の」を例にあげると、どの性においても fallax で、辞書では fallax, acis, adj.のように表示される。ここで 2 番目に書かれているのは中性形ではなく単数属格の語尾であり、単数属格では fallacis となることを示すことで語幹を明らかにしているのである。この仲間には他にも tenax(強靱な), triprex(三重の), praecox(早生の)など-ax, -ex, -ox などの語尾で終わるものがある。

さらに子音幹形容詞には語尾が-ans, -ens で終わるものがあるが、これは動詞の現在分詞(英語の-ing にあたる、~している)が形容詞として用いられているものである。「這う」という意味の動詞 repo(不定形は repere)から現在分詞 repens(這っている)、「這い回る」という意味の動詞 repto(repo の反復動詞[frequentativum], 不定形は reptare)から reptans を導くことができる。辞書では repens, entis, pr.p. [repo]のように表示され、2 番目の entis は単数属格で repentis となること、そして動詞 repo の現在分詞(pr.p.: praesentis participium)であることを示している。植物学で使用頻度の高い pubescens「有毛の」は動詞 pubesco「成熟する、毛で覆われる」の現在分詞に由来したものである。

いずれも単数主格は男性、女性、中性で同形である。第一第二変化形容詞と同じ活用をする完了分詞とくらべてみてほしい。

この他にも第三変化形容詞として用いられるものに、第三変化名詞を形容詞的に用いる例がある。longipes(足[葉柄]の長い)は longus(長い)と第三変化名詞の pes(足)からつくられた合成語である。

最後に不規則な変化をする第三変化形容詞 vetus(古い, 老練な)を紹介しておこう。熟練者を意味するベテランという語の語源であり、ラテン語の教科書にはかならず不規則な第三変化形容詞として出てくる。単数主格は男性、女性、中性で vetus のまま変化しない。第一第二変化形容詞のように -us, -a, -um とはならないので注意したい。

第三変化 i 幹形容詞(単数主格)

属の性	i-a) -is, -e 型	ii-a) -er, -ris, -re 型	ii-b) -er, -eris, -ere 型
男性	brevis	acer	celer
女性	brevis	acris	celeris
中性	breve	acre	celere

その他の第三変化形容詞・現在分詞は単数の男性・女性・中性で同形

永益英敏. 2012. 学名のラテン語(10) 種と種内分類群の形容語-形容詞 1. 日本植物分類学会
ニュースレター 45: 17-18.

Stern, W. T. 1992. Botanical Latin, 4th ed. David & Charles, Newton Abbot Devon.

会費納入はお済みですか？

- ・会費は前納制です。
- ・まだ納入されていない方は至急納入ください。
- ・適正な学会運営のために、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。
(金額, 振込先は最後ページをご覧ください)
- ・なお、長期滞納者に対しては、規約第 10 条(2)に基づき、除名を行っております。
- ・ご不明の点があれば、会計幹事までご連絡ください。

編集室より

情報提供・寄稿のほか叱咤激励を歓迎します。ご連絡は下記まで。

〒606-8502 京都市左京区北白川追分町

京都大学大学院 理学研究科 生物科学専攻 植物学系 植物系統分類学

東 浩司 075-753-4125 (TEL&FAX) azuma@sys.bot.kyoto-u.ac.jp

学会誌 APG (*Acta Phytotaxonomica et Geobotanica*)への投稿のお願い

日本植物分類学会会員各位

会長をお引き受けしてから4年になりますが、この間APGの発行(年3回)が毎年遅れ続けてきました。そのため、年間発行予定数が消化できず、翌年に持ち越されるという状況が常態化し、経理処理上の混乱や、定期購読者へのいわば契約違反状態が続いてきております。

発行の遅れの最大の原因は投稿されてくる原稿の数が少ないことにあります。対照的なのは3月に開催される大会です。そこでは口頭発表・ポスター発表とも毎年増え続けており、今のAPGの問題を際立させております。

かつてAPG(植物分類地理学会発行)は日本語・英語混じりの年2回発行でした。そこで、10年少し前に2つの学会(旧植物分類学会と植物分類地理学会)の統合により今の植物分類学会をつくり、同時にAPGの国際誌化を目指しました。APGの完全英文誌化と、投稿から印刷までの時間短縮のため、年2回から年3回へと発行数を増やしました。完全英文誌化は、それによって国外からの投稿を促しており、ある程度成功したと言えるように思います。しかし、それにも関わらず、昨年から今年にかけて、年2回の発行すらできない状況です。発行の遅れが、投稿数を更に減らすという悪循環に陥ってしまったようです。

APGは日本植物分類学会の学会活動の表の顔であり、これの定期的刊行なくしては学会活動が健全に行われているとは言えません。APGの苦境を脱し、真に国際誌として評価を得るために、会員各位にはこの夏、APG掲載のための原稿を1つ2つと書いて投稿されるよう是非ともお願いしたいと思います。

日本植物分類学会 会長 戸部 博

会員消息



入会申込、住所変更、退会届、会費納入、購読申込などは下記へご連絡ください。

〒305-0005 茨城県つくば市天久保 4-1-1

国立科学博物館 植物研究部

日本植物分類学会 保坂 健太郎 (会計幹事)

Phone: 029-853-8967, Fax: 029-853-8401

E-mail: khosaka@kahaku.go.jp

会 費： 一般会員 5,000 円, 学生会員 3,000 円,
団体会員 8,000 円

郵便振替口座番号: 00120-9-41247

加入者名: 日本植物分類学会



* ニュースレターに掲載された記事の著作権は日本植物分類学会が管理いたします。

平成 24(2012)年 8 月 23 日印刷

平成 24(2012)年 8 月 28 日発行

編集兼 京都市左京区北白川追分町
発行人 京都大学大学院理学研究科
生物科学専攻植物学系
東 浩司

発行所 大阪府堺市中区学園町 1-1
大阪府立大学大学院
理学系研究科
日本植物分類学会